



子育て支援について

■ ファミリー・サポート・センター事業について

この事業は、乳幼児や小学生など子どもを育てる保護者を対象に、子育てを支援したい方（協力会員）と支援を受けたい方（依頼会員）をつなぎ、地域における相互援助活動の促進を目的とし、近隣市町や茨城県内でも80%以上の自治体が実施している。また、母子家庭の方からはサポートの必要性を聞いている。

問 地域の子育て家庭を支援するため、ファミリー・サポート・センター事業を早急に導入すべきと考えるが。

こども未来課長 ファミリー・サポート・センター事業は、子育て支援の充実には欠かせない事業であると考えています。今後、協力会員の確保等を含め社会福祉協議会などと事業の実施に向けて十分に協議していきます。

■ 小学校の保護者駐車場の出入口について

小学校の統合に伴い保護者による送迎の車両が増加。特に雨天時には多くの児童が車で送られるため、道路と駐車場が混雑し危険で、追突事故も発生している。進行方向等の改善をしていただいたが、現在も保護者から多くの不安の声が寄せられている。

問 保護者の送迎時の安全確保のため、出入口の幅を拡張するか、あるいは新たな出入口の増設や再整備を行うなど安全対策を講じることができないか。

教育次長 駐車場出入口の増設及び再整備の計画はありません。安全確保対策として、出入口にセンターラインを引きサイン表示を実施します。また、保護者に対し徐行運転の徹底を周知します。

■ 居場所づくり（子ども食堂）について

子ども食堂の魅力は、地域の誰もが年齢や立場を超えて交流できる「みんなの居場所」として機能している点である。全国的にも年々増加し、その必要性和社会的意義が広く認識されつつある。

問 地域のつながりを深める「居場所づくり」の一環として、子ども食堂を定期的に実施すべきと考えるが。

こども未来課長 子ども食堂の創設について、現在検討を進めているところです。先行自治体の実施状況などを参考にし、町民の皆さんへの周知なども含め、最適な実施方法を検討していきます。

■ 今後の子育て支援について
国による小学校給食費の無償化が実現すると、現在給食費に充てている財源を学校教育にかかる教材費や修学旅行費の補助などに活用し、更なる子育て支援につなぐことが可能となる。

問 今後の子育て支援の在り方や将来像をどのように考えているか。

町長 今回、議員より提案のあった「ファミリー・サポート・センター事業」「子ども食堂」の検討を進めるとともに、引き続き、妊娠期の母親から誕生したこどもが18歳に至るまで切れ目のない子育て支援策の一層の充実を図っていきます。

ファミリー・サポート・センター

子育ての「援助を受けたい人」と「援助を行いたい人」が会員となり、地域の中で子育ての助け合いを行う有償のボランティア事業です。



サポート事例



保育施設への送り迎え



保護者が買い物など外出の際、子どもを預かる



学校の放課後などに子どもを預かる



保護者の病気や冠婚葬祭などの急用時に子どもを預かる